



## 子宮頸がんを防ぐことができる 「ワクチン」をご存じですか？



大館市立総合病院 産婦人科医師の石原佳奈です。今回みなさんにぜひ知っていただきたい大切なことがあります。それは、「HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン」についてです。性交渉を経験する前に接種することで、子宮頸がんを約90%も予防することができます。

子宮頸がんは子宮頸部にできるがんで、20代～40代の若年層に多く、日本では年間1万人が罹患し、約3,000人（1日に換算すると8人）が死亡しており、患者数・死亡者数ともに近年増加傾向にあります。20代～40代というと、出産時期と重なることから「マザーキラー」とも呼ばれています。

子宮頸がんの主な原因は、HPVへの感染です。HPVは性交渉で感染するため、一度でも性交渉の経験があれば誰でも感染する可能性のあるとても身近なウイルスです。HPVは200種類以上の型がありますが、感染してもほとんどの場合は自分の免疫力で抑えられます。しかし、一部がん化リスクの高いHPV（ハイリスクHPV）の持続感染が起これば、子宮頸部の異形成（異常）が起これば、それが進行すると子宮頸がんを発症する人がいます。つまり子宮頸がんを予防するためには、HPV感染前に、HPVワクチンの接種を完了しておくことが最も効果的です。

HPVワクチンは現在定期接種となっており、小学校6年生～高校1年生まで無料で受けることができます。15歳未満で1回目を開始すると2回接種で完了します。定期接種の対象年齢を過ぎてから、全額自己負担で受けようとする、1回あたり約3円近くかかるワクチンですので、定期接種の期間に接種することをお勧めします。

### HPVワクチン接種スケジュール

## 通常1回目接種から6か月で完了

一般的なスケジュールは次のとおりです。

15歳未満で開始 2回接種	1回目から6か月後に2回目を接種し完了
15歳以上で開始 3回接種	1回目から2か月後に2回目を接種
	1回目から6か月後に3回目を接種し完了 ※2回目から3回目は3か月以上あける

ワクチンについて詳しく知りたい場合は、こちら



厚生労働省HP  
HPV感染症情報

次の条件を満たすことで、一般的なスケジュールより接種間隔を短縮することも可能です。

2回接種	2回接種の場合、1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。 接種間隔が5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。
3回接種	2回目が1回目から2か月後に接種できない場合、2回目は1回目から1か月以上必ずあける。
	3回目が1回目から6か月後に接種できない場合、3回目は2回目から3か月以上必ずあける。

**高校1年生が、無料で完了するための1回目の最終期限は11月20日！！**

副反応大丈夫でしょうか、...



### HPV ワクチン接種でみなさんが気になっていること

接種にあたり、接種後の副反応が心配だという声も聞きます。  
筋肉注射なので、接種部位の痛みや腫れなどが出ることがあります。

しかし数時間から数日で落ち着きます。

HPV ワクチンの安全性は世界中で証明されており、以前報道されたような多彩な症状と HPV ワクチンとの関連はないと厚生労働省の検討会でも結論づけられていますので、安心して接種してください。

### 産婦人科医師としての経験からお伝えしたいこと

子宮頸がんの恐ろしさ、辛さを私は何度も経験してきました。30代でお子さん2人を残して亡くなった患者さんのことを今でも忘れられません。命は助かっても、妊娠出産を諦めた患者さんもたくさんみてきました。ワクチンを打ってくれていればと、何度も悔しい思いをしてきました。子宮頸がんは、HPV ワクチンで予防できるがんです。予防できるがんで、命を落としたり自分の思い描いていた未来を描くことができなくなる女性が減らないことが悔しくて仕方がありません。

大館市では、どれくらいの方が受けてますか？



### 大館市のHPVワクチン接種率

大館市では、令和7年度の高校1年生が、9月末までの標準的スケジュールで接種を開始している割合が60%でした。最終的には67.6%までになりましたが、もっと多くのかたに接種していただきたかったです。せっかくの機会を逃すのはもったいないです。

9月末までの未接種の高校1年生には、11月20日頃が短縮スケジュール開始のリミットと市から個別にお知らせはしていましたが、1回目接種が事情があって遅れた、1か月後の2回目の接種が、年末の病院の休みと重なった、インフルエンザ等の感染症にかかって12月に接種できなくなったなどの声が届いています。2回目接種が1月になったりすると、3回目を無料の期間に接種できなくなってしまいます。高校1年生で未接種の方は特に、余裕をもって早めに開始することをおすすめします。

### 予防接種が受けられる医療機関

健康ガイド P23 をご覧ください



R8健康ガイド



### HPV ワクチンと併せて行うとより効果的

子宮頸がんの予防にはワクチンで HPV 感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診での早期発見が大事になります。  
20歳過ぎたら子宮頸がん検診を定期的に受けましょう。



接種について疑問や不安がありましたら、ぜひ私のところへいらしてください。  
いつでもお待ちしております。

大館市立総合病院 産婦人科 部長 石原 佳奈



【お問い合わせ先】大館市福祉部健康課健康企画係 TEL：0186-42-9055